

◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 テーマ 「10人いれば10通りの受け取り方がある！」

～疑似体験を通して知的・発達障がいへの理解を深めよう～

2 期日・会場 令和6年5月10日（金） 村山総合支庁西村山地域振興局講堂

3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、保育施設園職員、一般等（参加者41名）



4 内容 講師 知的障害者啓発隊「花笠ほ一ぶ隊」
（古澤 薫 氏、長谷川 薫 氏、二関 郁子 氏）
疑似体験を交えた講座（100分）



- ・あなたならどう描く？（抽象の具体化、捉え方の違い）
- ・これ、なあに？（シングルフォーカス）
- ・言葉だけで図形を伝えよう
- ・視覚支援とは（写真の有効性、ピクトグラム、文字より色？）
- ・写してみよう（ディスレクシア、UDフォント）
- ・軍手で疑似体験（手先の不自由さ、言葉がけの影響力）



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・体験的に学ぶことで、ここまで新たな発見や気づきがあるものかと思いました。今まで理解しているつもりでも、改めて向き合ってみると見えてくるものがあるのだと思いました。
- ・読み聞かせサークル、子ども教室等でメンバーと共有し、「理解しようとする地域の人」になりたいと思いました。町や学校で、「花笠ほ一ぶ隊のお話が聞きたい」と要望を出したいと思います。
- ・疑似体験によって、障がいのある方の世界を知ることができて大変良かったです。私自身が変わっていくことが大事だと思いました。皆同じ人間！素晴らしい内容でした。
- ・とても明るい花笠ほ一ぶ隊の方々を知ることができ、支援の仕事をしているものとして障害を持つ人の思いを伝えて広めてくださっていることに感謝したいと思います。とても貴重な学びの時間となりました。
- ・実際に色々なことを体験できて、支援が必要な子どもたちがどのように感じているのかを身をもって感じることでできて良かったです。これから子どもたちと関わっていく中で、その子がどんなことに興味があるのか、どんなことが好きなのかはっきり分かるようにして保育をしていきたいです。

村山地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 テーマ 「自分の言葉で考えを伝える楽しさを
～『まる語』は魔法のアイテム～」

2 期日・会場 令和6年10月4日（金） 天童市立蔵増公民館 集会室

3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、村山総合支庁子ども家庭支援課担当者、市町児童福祉部局担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、保育施設園職員、一般等（参加者35名）

4 内容 講師（県家庭教育アドバイザー 菊地 喜美子 氏）

（1）講座（70分）



- ①自己紹介とまる語
- ②伝わる会話は発声から♪
口の体操、口の使い方、声の出し方、早口言葉、間の取り方など
- ③こころがまあるくなる言葉の使い方
- ④感想・振り返り・質問等

（2）意見交換（30分）

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・言葉の発音の仕方、何気なく話していた口の使い方を気をつけるだけで、相手に伝わるようになるのだと思いました。何で伝わらないんだろうと思っているので、間の取り方や強弱、そして10才でも分かる言葉選びを気をつけたいです。
- ・この講座に参加する前、子どもを「言葉」で傷つけたことを悔やみ、自分を必ず変えたいと思っていました。思いやりの言葉「まる語」を知り、自分が言われて嬉しい、自分が使って自分も相手も心があつたかくなる言葉を今日から発します。子どもや妻の心の支えになる「言葉」を日々伝え、これからの人生を豊かに過ごしていきたいです。
- ・「言葉を見る」ということが最初分からなかったのですが、講座を聞いているうちに受け取る相手への配慮等でどんな色や形をしているか考えて発することだと分かりました。今後は自分の言葉がどんな形でどんな色なのかを考えて生活していきたいです。
- ・何気なく使っている言葉ですが、相手が親しくなる分だけ遠慮がなくなり傷つけ合ってしまうことも多々…。まる語を意識して人生をハッピーにしていきたいです。



最上地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年6月29日（土） 新庄市エコロジーガーデン

2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、地区PTA協議会母親委員及び保護者等（参加者61名）

3 内 容

(1) グループワークを交えた講座（90分）

演題 「怒りの感情とうまくつきあい人生をもっと楽しく！

～思いが伝わる叱り方で円滑な人間関係～

講師 須藤 好子 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

・怒ることのメリット・デメリット
・アンガーマネジメントとは
・私たちが怒らせるもの
・怒りの連鎖を断ち切ろう



(2) 感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・日々の忙しさのせいにして、怒りやイライラは自分の心が作っていると知りました。でも、人は何度でも変わって、無理せず、親自身が幸せになれると知れて、怒りに対する思いも変わりました。今回、このような研修会を通じて知ることができ、大変よかったです。大変勉強になりました。
- ・日常生活の中で、常に冷静でいられたり、上手に叱ることはなかなか難しいことで、どうしても傷つけたり押しつけがましくなることがあります。こうした機会に自分自身を振り返るのか、そのまま続けるか、では大きな差があるように思います。少しずつ叱り方を変えていくことで、子育てが楽しくなるのかなと思いました。
- ・自分はどんなことに対して怒りの感情が出るのかを分析するいい機会になりました。ひと昔前の叱らない教育ではなく、コントロールすることが大切なのだと感じました。
- ・グループで話す機会が多くあり、参加型の研修会であったため、主体的に参加できてよかったです。
- ・ほかの学校の保護者や先生と接する機会がほとんどないので、ありがたかったです。大変有意義な時間を過ごすことができました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和6年9月3日(火) 遊学の森(金山町)

2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、読み聞かせサークル会員、放課後児童クラブ関係者等(参加者15名)

3 内 容

(1) 講演と体験(120分)

演題 「ようこそ 森へ ～自然体験のススメ～」

講師 矢口 末吉 氏 (前鮭川村教育長・森の案内人)

≪講演≫

- ・自然体験のよさ
- ・実際の活動例

≪体験≫

- ・ネイチャーゲーム(色さがし)
- ・ススキでフクロウをつくろう



(2) 感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・自然の中で様々な体験をすることで、子どもたちの発想力、危機感知能力の高まりが期待できることがわかりました。
- ・痛いことを知ることは、他人に痛みを与えないことを学びました。
- ・常に子ども目線で考えることがどれだけ難しいことか、大人はこれまでの経験などにとらわれているので、童心に帰る大切さを学びました。
- ・今の時代の子どもたちは、このような機会を設けなければ自然とふれあうこともなく、地域の自然に関する知識を伝えることも難しくなっているのだと再確認しました。
- ・葉っぱで遊び、童心にかえることができた。子育てや事業に生かしたいです。
- ・安全であることも大切だが、けがをして初めて知ることもあり、やってみることの重要さを感じました。
- ・ワークショップ「森の中に出かけてみよう!」で、いろいろな色を探して見ましたが、ありそうでなかなか見つけられず、難しかったです。
- ・自然の中で学ぶことは無限であることを学びました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年5月22日（木） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂

2 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、子育て支援センター関係者
(参加者 32名)

3 内 容

講演 「思春期のからだと心の健康～自律神経失調症からの身体症状～」
講師 小松 ひろみ 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

1 はじめに

- ・家庭教育も時代とともに変化。
「しつけ」「生活リズム」より「ネット利用」「日々の生活」に。

2 大切にしたい3つの視点

- ① 連動している「痛み」と「不安」
 - ・手を当てて心の痛みを聞く。
- ② 「生活リズムの乱れ」から「自律神経の乱れ」や「起立性調節障害」
 - ・起立性調節障害について
 - ・事例の紹介
 - ・最寄りの学校の実態
- ③ 思春期の心のメカニズムを知る

3 家庭で大切にしたいこと

- ① どの子にも、どの大人にも、どの地域の方にも、平等に公平にあたたかく普段の会話から、情報や子育てのヒントを得ることが多い
- ② 子育て5か条に学ぶ 事実を事実として伝える
- ③ 多くの失敗やハプニングから学び、たくましい力を
- ④ 相談できる人を見つけ、人の力を借りる
- ⑤ 明るく大らかに生きていく姿を見せながら 困ったときは寄り添って

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）



- ・子ども向けの分かり易い劇で課題が明確となり、対処法も子どもにも大人にも伝わるものでした。対応の参考になりました。
- ・メンタルヘルスの劇、どのようなものなのかな？と思っていましたが、とても面白く、とてもわかりやすいもので驚きました！私も実践してみたいなと思いました。
- ・今、子育て中であり、不登校支援にも関わっている中で、改めて大切と思えることをいくつか教えていただき、気付かせていただきました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和6年9月17日（火） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂
- 2 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、小学校教員等（参加者43名）
- 3 内容
講演 「知的・発達障がいの理解啓発」、疑似体験
講師 古澤 薫 氏、長谷川 薫 氏、二関 郁子 氏
（知的・発達障害理解啓発キャラバン 花笠ほ一ぶ隊）



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・実際に体験してみることで、「??」が多く、「できないもどかしさ」「悔しさ」等を感じることができた。そこを「できた」「わかった」につながるサポートの大切さ、みんなでその個性を認めていく大切さを感じた。
- ・実際に体験してみたの気づきがたくさんあった。当たり前に行っていることは、誰かにとっては当たり前なことではないこと、それぞれの得意、不得意を理解して、フォローし合える世の中になっていければと感じた。職場の職員にも共有し、今後にかかしていきたいと思う。
- ・最後の動画の中にあつた障害のある方の「障がいがあつてよかった。」という言葉がとても心に残りました。まわりの人、環境、理解によってそう思うことができるようになるのだと感じました。私も障がいのある方が安心して過ごせるよう、理解し、手助けしていただける保育士、支援員になりたいです。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年6月27日（木） 庄内総合支庁分庁舎2号会議室

2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、
家庭教育アドバイザー等（参加者32名）

3 内 容

(1) テーマ：「怒りの感情と上手に付き合おう

～アンガーマネジメントで自分も相手もハッピーに～」

(2) 講 師： 須藤 好子 氏（県家庭教育アドバイザー）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 怒りとは2 私たちを怒らせるもの3 アンガーマネジメントの3つのコントロール4 怒りの連鎖を断ち切ろう |
|--|



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・怒りを数値化することで客観的な分析につながり、そのことによって冷静に捉え直すことが可能になることがわかった。また、誰かに自分のことを話す自己開示の場面が多くあったので、そのことも第三者の立場で自分のことを見つめることができるのかもしれないと考えた。
- ・怒りやネガティブな感情が湧き上がってくる自分を客観視する視点を持つことができるようになったと思う。普段からガスを溜めこまないよう意識してリラックスする時間を作りたいと思う。
- ・自分の日頃の怒りを客観的に考えることができ、今後の対応を考えたり改めたりするよいきっかけとなった。みなさんと和気あいあいとワークショップができてよかった。
- ・家庭でも仕事でも、怒りの感情を持つとなかなか気持ちを切り替えられずにいることがあったので、考え方を教えていただき、参考になった。トライ&エラーで変わっていきける。日々の生活に生かしていきたいと思った。
- ・講師の先生のお人柄もあり、楽しく和やかに研修できた。怒りは防衛感情であり自然な感情なので、なくすことは不可能というお話が印象的だった。怒りの正体は自分の中にあり、自分でコントロールできるということを学んだので、アンガーマネジメントを心がけていきたい。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和6年11月1日（金） 庄内総合支庁講堂

2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、家庭教育アドバイザー等（参加者32名）

3 内 容

(1) テーマ：「気になるあの子にわたしができること
～児童相談所からのヒント～」

(2) 講 師： 中島 貴史 氏（山形県庄内児童相談所
地域指導主幹（兼）次長（兼）児童福祉司）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 山形県の児童虐待の現状2 児童相談所の役割3 様々な視点から子どもへの対応を考える4 子どもたちへの支援を通じて感じたこと |
|--|

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・子どもの困り感を想像したり、探ったりしながら寄り添っていきたくて改めて強く思った。
- ・子どもだけでなく、保護者も支援するという視点を持つことも大切だと思った。子どもたちを取り巻くみんなで考えていく必要がある。
- ・子どもや保護者の思いをしっかりと傾聴することの大切さや難しさを改めて感じた。
- ・いろいろな観点から子どもたちを見ていくというヒントを得ることができた。「気になるあの子」に役立てられるよう、日々実践してみたいと思う。

